

2021年11月
1166号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

自ら道を切り拓く社会へ

～今何を学び、どう生きるのか～

晩秋の見事な秋晴れの11月14日、第三回目のオンライン櫻華塾は、静岡大学名誉教授であり、長くに亘り、一冊の会の活動を支援して下さい、特に『1946.4.10 初の婦人参政権行使と日本女性自立への^{たびだち}出発』(通称 ブルーの本)を監修して頂きました馬居先生をゲストに迎え、2部構成で行いました。

第一部は馬居先生よりオンライン講義、第二部は一冊の会の石田理事長及び大槻会長の挨拶、山内事務局次長から東日本大震災復興祈念植樹の報告となります。

【第一部 / 馬居先生によるオンライン講義】

前回の櫻華塾でゲスト出演下さった馬居先生が、今回は「子どもの現実一超少子社会を生きる男女の自立への道を拓き開くために」という2021年7月に発刊された「考える子ども」という教育雑誌に執筆された学術論文の一部を基にオンライン講義をして下さいました。

馬居先生は7年前に退職されましたが、今年からまた静岡県立大学で教鞭をとられ、9月22-23日、28-29日に同大学の教職免許取得希望の学生に対して総合的な学習・探求の時間の教育指導法のオンライン講義をされたとのこと。学生のほとんどが2000年以降の生まれで、所謂“Z世代”であり、団塊の世代に生まれた馬居先生から見るとセンスがよく知識も豊富ですが、「自ら拓く力」が足りないと感じたとのこと。団塊の世代では自分たちの経験を物差しに、過去未来を評価し、自己形成をして来た時代。団塊という言葉が象徴するように、2世帯に1世帯は子どもがいて、兄弟姉妹が4人から5人いたことも分かっています。つまり一人の子どもの周りに多くの年上や年下の子どもがいて「身近なおとな」のモデルがいた時代です。しかし、現在は5世帯に1世帯しか子どものいる家庭がなく、しかも兄弟姉妹がいない子どもが増えている人という統計が出ています。子どもの周りから「子ども」がいなくなっているのです。

そして出産年齢の統計結果では、出産年齢が高くなっているという事実があります。20年以上前は20代後半の出産年齢が一番高かったのですが、30代前半の割合が年々増え、また30代後半の割合も上がっています。出生率の話では、1947年団塊ピーク(ベビーブーム)、1960年少産世代(子ども二人に)、1973年団塊ジュニアピーク(第二次ベビーブーム)、1989年少子世代(1.57ショック)、そして2010年頃から始まる超少子世代と5つの世代があります。つまり現在はこの5つの世代が織りなす同時代性といえます。現在の子どもはこの5つの世代からなる同時代性の中を生きており、現在の政治や経済分野において決定権を持つ団塊の世代の人たちにより拓かれた道、仕組まれた社会を生活しているのです。その為「社会は拓くもの」という考え、意識が少ないと感じるとのことです。

現在の教育現場では「中学校受験」が注目されており大都市の子どもの1/3は中学校受験をする時代となっています。これは大人が自分たちの生きてきた社会の仕組みに子どもを当てはめ、大人の考える「キャリアのある未来」を子どもに押し付けていることも原因のひとつです。本来子どもは「自分の考え、大人の考え」の合体で自ら未来を拓いていくべきですが、子どもに選択肢を多く与えることが大人の役割となると馬居先生は仰います。

親として、大人として大事なことは子どもへ「自分の生き様を見せること、自分の背中を見せること」とのこと。一冊の会のような世界各国の貧しい国や必要としている国の子どもへの文房具の援助や、東日本大震災をはじめ、震災等で苦しんでいる人・地域に対しての持続的な支援活動、女性の地位向上や活躍の場を広げる為の啓蒙活動等がまさしく大人が子どもへ見せるべき「姿勢」なのだ、こういった活動こそが一人ひとりが

自分で表現する力を持つ原点となるということです。少子化問題を子どもの問題として捉えずに、大人である私たちが今何を考え、どう生きるのか、を常に念頭に置きこの時代を生き抜くことが一番大事なのだと再認識致しました。

【第二部 / 一冊の会石田理事長の講演】

先月、衆議院選挙がありました。政治家の伝える力が問われています。信念をもって正しいと思えば語りかければよい。自分できちんと根拠となるデータを示さなければなりません。経済か安全かとか、経済か自由かとか、そういった二者択一的な論調は良くありません。経済も、安全も、感染対策も全て重要なのです。感染対策に力を入れすぎて経済が悪化し、失業者が増加して自殺者が沢山出てしまつては、命を大切にするために始めた対策が元も子もありません。政治家は多面的に物事をみながら全体の犠牲者を少なくする必要があります。その政治家を選ぶのは有権者です。尾崎行雄が最も力を入れて主張したのが有権者のあり方です。皆さんにいつも言うことですが、尾崎は95才という長命でしたが、「人生の本舞台は常に将来に在り」と言った時は74才。新型コロナのことに限りませんが、情報をどこから手に入れてどう解釈するかという力をつけなければなりません。世のために何が出来るか、これからの未来は皆さんでつくるものです。

今日は皆さんの顔を見ることができ、大変お元気そうで安心しました。オンラインも素晴らしいですが、やはり実際に顔を合わせてお話しする熱量は素晴らしいですね。早く実際にお会いできればと思います。



【第二部 / 大槻会長の挨拶】

◆一冊の会は、筆頭最高顧問赤松良子先生に師事を仰ぎ、宮崎公立大学の学長であり女性学の推進者であった故林弘子先生に世界の女性問題、女性の在り方につき言及して頂きながら世界から日本の女性の地位やクォータ制等、数々の活動を粘り強く継続してまいりました。故林先生の友人、元久留米大学名誉教授、坂岡庸子先生が嬉しいことに本日このオンラインに参加して下さいました。また鈴木まり子さんのご紹介で、町田さんのご家族皆お揃いで本日よりオンラインに参加して下さいました。新しいメンバーと共に一緒に学べることに深く感謝致します。

◆大槻会長とは70年前より親交があり、一冊の会とも交流がございました、瀬戸内寂聴さんが多くの方々に惜しまれつつ、ご逝去されました。

◆大槻会長、小山副会長、山内事務局次長は10月17日に南相馬市に東日本大震災復興祈念植樹を致しました。

◆11月11日に南アフリカでアパルトヘイト（人種隔離政策）の撤廃に、南アフリカ初の黒人大統領に就任された故ネルソン・マンデラ氏と共に貢献したフレデリク・デクラーク元大統領が病死されました。

*デクラーク氏は1990年アフリカ民族会議(ANC)などの黒人解放運動を合法化するとともに、27年間にわたって収監されていたANC最高指揮者のマンデラ氏の釈放を宣言して歴史に名を刻みました。

一冊の会は1990年代にANCを通して支援をしており、第一回アフリカ開発会議で大槻会長がマンデラ氏にお会いした際に、一冊の会の支援に対して心から感謝の意を伝えられたとのこと。（詳細は万葉2021年7月1164号に記載されております）

【第二部/ 南相馬市で行われた東日本大震災復興祈念植樹の報告 ー 山内事務局次長より】

今年で東日本大震災から10年経ちました。10月17日に南相馬市に行き、第2回南相馬市東日本大震災復興祈念植樹を行いました。ついに同じ街で2回目の植樹です。前はレソト王国大使代理に参加頂き、植樹しました。今回、南相馬市のあたたかさに触れることができました。多くの職員が休みにも関わらず、雨の中、テント設営や多々準備くださり、10年経っても忘れずに活動して下さることが嬉しいと言って頂きました。本来、式典で感謝状を頂く予定でしたが、コロナで延期になったため感謝状を先に頂いてきました。みなさまのご協力で頂いた感謝状です。これからも継続することが大切です、みなさまのご支援もよろしくお願いいたします。

文責：城杉主任研究員、赤田主任研究員

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2020 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.